

令和4年度第2回  
岡山市男女共同参画専門委員会要旨

- 1 日 時 令和4年11月24日(木) 午前10時～午前11時30分
- 2 場 所 議会棟3階第1会議室
- 3 出席委員 小倉委員、栢野委員、岸委員、小林委員、東海林委員、田村委員、中塚委員、濱西委員、藤田委員、山本委員
- 4 出席職員 (市民協働局)大谷次長、(女性が輝くまちづくり推進課)長谷川課長、藤原担当課長、繁定課長補佐、神崎主査
- 5 傍聴者 なし
- 6 次 第  
(開会)  
市民協働局次長挨拶  
(1) 議事  
①岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準適用について(報告)(資料1)  
②「第5次さんかくプラン」年次報告(令和4年度)(案)について(資料2)  
(2) その他
- 7 配付資料  
資料1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用に係る審査票(第19条第3項運用基準適用)【介護保険課】  
資料2 「第5次さんかくプラン(事前送付)」  
(追加)第51回日本女性心身医学会学術集会・第36回日本女性心身医学会研修会(チラシ)  
(追加)あかちゃんのお風呂を学ぼう(チラシ)
- 8 会議の状況  
(1) 議事  
**議事①**  
岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準適用について(報告)  
○説明内容  
資料1について事務局から説明  
  
○意見等  
・介護認定審査会の認定審査を行う合議体では女性割合が40%を超えているのでいいが、もう一つ、委員になる医師の男女割合がどうなっているかが大事で、それはクリアできていない。今は医師全体の女性割合は、十数%ではないはず。もっと若手の女性医師を入れたらいい。次回は担当課が出席して、説明してもらおう場があってもいいかと思う。委員長、副委員長の承認、報告だけで終わらせると、今後どうしていくのかの議論がない。  
・今後どうするかについてはとても大事なので、委員会での意見を担当課に伝えて、具体的な策を報告してもらいたい。

## 【事務局コメント】

平成14年10月8日の本専門委員会において決定された「さんかく条例第19条第3項の運用基準」に基づき、正副委員長に連絡の上、事後の専門委員会で報告を行っています。

担当課には委員からのご意見を担当課に伝え、引き続き女性委員が4割を下回っている状況を改善するため、医師会等に対して女性医師の積極的な推薦を働きかけるよう要求します。

## 議事②「第5次さんかくプラン」年次報告（令和4年度）（案）について

### ○説明内容

資料2について事務局から説明

### ○意見等

#### ■p.1「はじめに」の下から9行目

- ・「一人ひとりが理解を深めていただき」は「一人ひとりに理解を深めていただき」のほうが良いのではないか。

→ご指摘のとおり修正する。

#### ■p.7「基本目標① 小中学校において男女平等の内容を含んだ授業を実施したクラスの割合」

- ・学習指導要領には男女平等の内容が含まれており、それに沿って授業を行っているので、この照会に対して「していない」という回答はあり得ない。「授業の内容の充実を図るように働きかけることが必要」と評価にも書かれているが、どのような授業の内容にしていくか考えていく必要がある。

#### ■p.7「基本目標② 保育所・幼稚園・認定こども園において男女平等の視点から保育・教育や保護者への啓発に取り組んだ園の割合」

- ・保育・教育と保護者への啓発を一緒くたにしているのはどうかと思う。
- ・「保育・教育」はしているが、「保護者への啓発」はしていないかもしれない。2つに分けて聞くだけでもだいぶ違う。聞き方も「できている」、「まあまあできている」、「あまりできていない」、「できていない」などの4段階ぐらいで回答してもらうなど、今の目標値を変えなくても工夫すれば解析できる。目標値はこのままでいいので、「保育・教育」、「保護者への啓発」に分けてアンケートをして、どちらかに○が付いていれば「できている」とカウントし、個別の集計結果は参考として掲載する。
- ・アンケート調査の内容についてはこちらから意見を言えるものではないのか。「保育・教育」、「保護者への啓発」を1つの質問で聞くようなダブルバーレルのアンケートにはならないか？専門委員会からの意見として、担当課に検討するよう伝えてほしい。

→アンケート調査は担当課が行なっているが、要望は伝えられる。アンケート見直しの際に検討したい。

- ・どのようなアンケート調査をしているのか、専門委員会でも内容を知っておきたい。
- ・保護者への啓発は非常に難しいと思うが、参観日の後の講演会の参加者数などを目標値にするなど見直しが必要ではないか。

→目標値は、昨年度の専門委員会で審議して決定している。目標値については、次期プラン策定の際に意見をいただいて考えていきたい。

- ・「基本目標⑬ 仕事と家庭の両立支援に取り組んでいる企業の割合」では、参考として具体的な事業が挙げられている。目標②でも、保護者への啓発として具体的にどのようなことをしているのか記載があると分かりやすい。

#### ■p.7「基本目標③ 『さんかくカレッジ』の受講者数」

- ・目標値、毎年400人の根拠は？R4の受講者数は532人で目標値を上回っている。評価にはHPやSNSで広報してどんどん増やしていこうとしているが、増えていけば体制の充実など対応能力を上げていくということも書くべきだ。

→目標値は、昨年度の専門委員会で決めたものだが、定員の70%程度の想定で出した数字。定

員は約 570 人なので、もう少し余裕がある。

■ p.8 「基本目標④ 市民への性の多様性についての啓発事業の参加者数」

- ・「アライ」という言葉が出てくる。全く知らない人もいるので、説明があった方がよい。
- ご指摘のとおり説明を追加する。

■ p.10 「基本目標⑥ 『男は仕事、女は家庭』という考え方に否定的な人の割合」

- ・目標値は 100%で良いのではないかと思う。

→目標値については、第 5 次さんかくプランを策定した昨年度、本専門委員会において審議・決定したものと認識している。

- ・性別のデータは必要。それによって対策が違ってくる。また、年代別の分析を評価に入れると深くなる。

→年代別・性別の数字があるので挙げる。

■ p.15 「目標⑩ 市の実施する DV・デート DV・性暴力・性犯罪防止啓発事業の参加者数」

- ・市の実施するものを数えているが、それ以外でも大学が独自でやっているもの等も数えることも可能かと。

・コロナの流行で、出前講座を受け入れる状況にないと思われる。P.20「目標⑱ 市の実施する企業における女性活躍推進、ワーク・ライフ・バランスの啓発講座等への受講者数」ではオンライン視聴のことが書かれているが、校内放送を利用した授業も取り入れる等で、数値を上げていけるのではないか。

→今後のやり方については検討したい。

■ p.15 「目標⑩ 市の実施する DV・デート DV・性暴力・性犯罪防止啓発事業の参加者数」ほか

- ・「情報発信を積極的に行い」等の記載があるが、誰がどのようにするのか、予算はどのくらいかというところが分からない。

→デート DV の冊子を作成して市立中学校の 3 年生全員に配布する事業は当課でやっている。他にも関連する事業があるが、それぞれの担当課があり、それぞれで実施している。予算については現在予算編成中である。

■ p.16 「目標⑫ 保育所等の待機児童数」

- ・8 人というのは 4 月 1 日の数値で、1 年の間で変動しているのであれば、0 人になっている期間がどれくらいあるとか解説があるといい。

→担当課に確認を取り、書けることがあれば追加する。

- ・知り合いの 0 歳児・1 歳児を持つ母親と話す中で、本当は子どもともっと長く一緒に居たいが、入園時期がずれると確率が下がるため、やむを得ず 4 月入園にしているという声を聞く。8 人という数字だけ見ると少ないように感じるが、それぞれの家族の背景も考慮して問題解決してほしい。

→この 5,6 年で、八百数十人から 8 人までになった。意見は担当課に伝える。担当課も希望に添えるようにという気持ちで頑張っているとは思っている。

■ p.18 「目標⑮ 仕事と家庭の両立支援に取り組んでいる企業の割合」

- ・「…導入している企業が増加しているものの、…」とあるが、前年度は何%だったのか気になる。

→第 5 次さんかくプランは今年度からなので、来年度以降数字を挙げて比較できるようにする。

- ・他の目標のところのように《参考》として載せることはできないか。

→それは可能。

■ p.19 「目標⑯ 岡山市女性が輝く男女共同参画推進事業所の認証件数」

- ・目標値は「件」だが、R4 のところに「52 事業所」となっている。こちらは%は出せないのか。

→従業員数 10 人以上の事業所は市内に約 2,000 というのは分かるが、正確な数字は分からない。（※補足：約 2,000 は、令和 3 年度に実施した「岡山市女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する調査」の対象とした岡山商工会議所外 4 商工会に属する従業員数 10 人以上の企業の数）

■ p.19 「目標⑰ 市の実施する再就職支援講座の受講者のうち就職に向けて活動した人の割合」

- ・受講者数、増減も必要ではないか。
- ・68%といっても、アンケートの対象が三十数人だと統計学的にどうか疑問。%でなく人数で記載したほうが良いと思う。

→対象者は市の実施する再就職講座の受講者となるため、受講者数を10倍とかに増やすのは難しい。毎年講座を実施して、少しずつでも数字が上がるよう根気強く続けていくことが必要だと考えている。数値目標については次期プランを策定する際にご意見をいただきたい。

■p.21「目標⑳ 市職員のうち課長級（校長級）以上に占める女性職員の割合」

- ・参考として都道府県や政令市の割合を載せているので、政令市の中での岡山市の順位を入れてはどうか。

→政令市に照会をかけて調査しないとイケない。内閣府のHPで確認してみる。

■p.21「目標㉑ 市職員のうち課長級（校長級）以上に占める女性職員の割合」

- ・教員で女性管理職を増やそうと思うと、数字だけでなくワーク・ライフ・バランスや幸福度についても評価に入れてほしい。

→今のところWLBや幸福度についてのアンケートはない。機会があれば検討する。

■p.21「目標㉒ 市職員のうち課長級（校長級）以上に占める女性職員の割合」など。

- ・組織の上層（意思決定過程に関わる人）に女性を増やす、法令・施策を作る人（議員や公務員）に女性を増やすことが重要。職員全体の男女割合に比べて女性管理職割合は本当に低い。女性管理職を増やすこともWLBとつながっていて、それらを推進する立場の職員が率先して取得してほしい。

→感覚的な話になるが、数年前まで女性職員の割合が低いことが問題として認識されていなかったと思う。その後、問題意識をもって進めていき、徐々に上がってきている。それでも現状はまだ少ないが、管理職になるにもステップがあるので急にはなれない。ある程度年数が必要である。今進めていることで徐々に割合も上昇しており今後も上がっていく。

- ・様々な啓発講座などに参加する人は興味がある人であり、本当に聞いてほしいのは企業のトップや学校の教員だと思う。

→大企業のトップや自治体の首長などの有志をメンバーとする、国主催の「男性リーダーの会」が開催されたり、本市では経営者を主なターゲットとした「女性活躍推進シンポジウム」を開催している。そういう人たちに理解してもらうことは大切だと思っている。

- ・民間企業のR4が10.9%で参考の2022年7月の9.4%を見ると下がっているように見える。

→10.9%は市内企業における女性管理職割合で、9.4%は帝国データバンクの岡山県の調査結果。

■全体を通して

- ・コロナの影響について書いているところといないところがある。

→コロナの影響があったものについては記載するようにする。

- ・全体として、各目標の現状値としてR4の数値、目標値となっているが、現状値を確認するにはp.4,5に戻って見なければならぬ。現状値を各目標の表の先頭に入れてR4の数値、目標値となっている方がよいと思う。

→ご指摘のとおり現状値を追加する。

- ・今回の会議は報告書の文章などを練る機会なので、そのあたりを中心に修正をしていただきたい。また、目標値について低いなどの意見が出たので、記録して次回に反映できるようにしてほしい。

(2) その他

①追加資料について

岸委員、中塚委員より、各配付資料について説明。

②次回（第3回）会議について

- ・第3回会議を2月に開催予定。日程調整はあらためてお願いする。（2月7日 13:30～）